

5. まちなみデータベース



石垣





1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



スアイ・ヒイヤ

隣家との間の約1m程度の生活道。

岡の方ではスアイ、北、新町あたりではヒイヤと呼んでいます。

日常生活の通行や火災時の抜け道として利用されていました。





1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



1 3



1 4



1 5



1 6



17



神社





1 天神社



2 秋葉神社



3 波折神社



4 大日神社



5 恵比須神社



6 金刀比羅神社 御旅所



寺院





1 教安寺



2 善福寺



3 新泉岳寺



祠・地蔵





1 地藏堂



2 波切不動尊



3 地藏堂



4



5 大師堂



6 庚申様（一説には荒神碑）



7 日切地藏尊



8 大師堂



9 地藏堂



10 大師堂



石碑





1



2



3



4



5

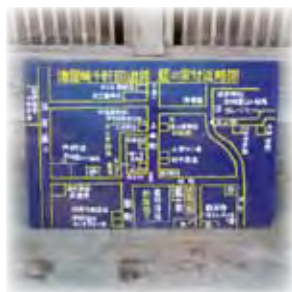


6



藍色の標識





1



2



3



4



樹木（単体）





1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



1 7



1 8



1 9



2 0



2 1



2 2



2 3



樹木（生垣）





1



2



3



4



5



6



7



8



樹木(塀+生垣)





1



2



3



4



5



6



7



8



9



1 0



1 1



1 2



1 3



1 4



1 5



樹木（低木＋高木）





1



2



3



4



5



6



7



8



樹木（複数）





1



2



3



4



5



6



7



8



樹木（花）





1



2



3



古写真

古写真から以前の景観を知ることができます。

吉田醤油店に1本、豊村酒造に2本の煙突が残っていた頃の津屋崎のまちなみがわかります。まちの繁栄と賑わいの一端が、遠景からもうかがい知ることができます。



吉田醤油福間醸造場

(出典：津屋崎宮司写真帳（大正14年）、所有：福津市）



豊村酒造の煙突が2本の頃

(出典：津屋崎宮司写真帳（大正14年）、所有：福津市）



左から吉田醤油店の煙突、占部醤油店の煙突、豊村酒造の煙突

(出典：不明、所有：福津市、提供：上田弘美氏)



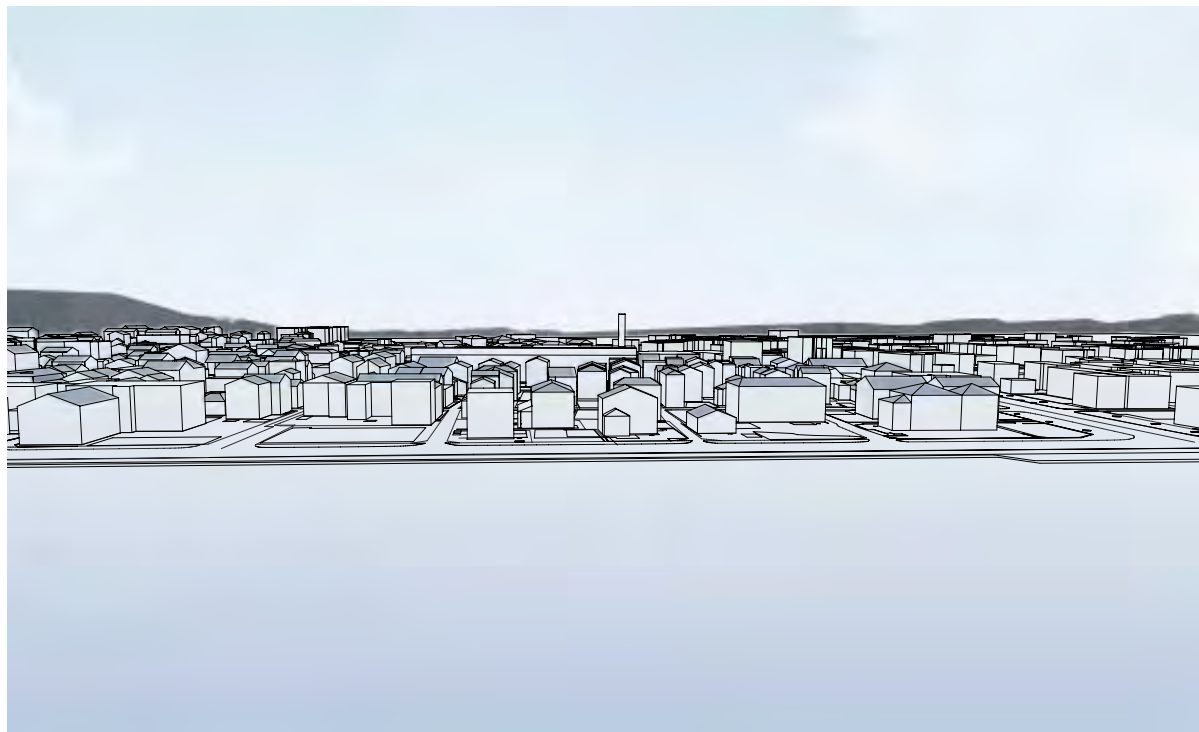
まちなみ復原 CG

津屋崎のまちなみを検討するために、復原 CG（コンピューターグラフィック）を制作しました。

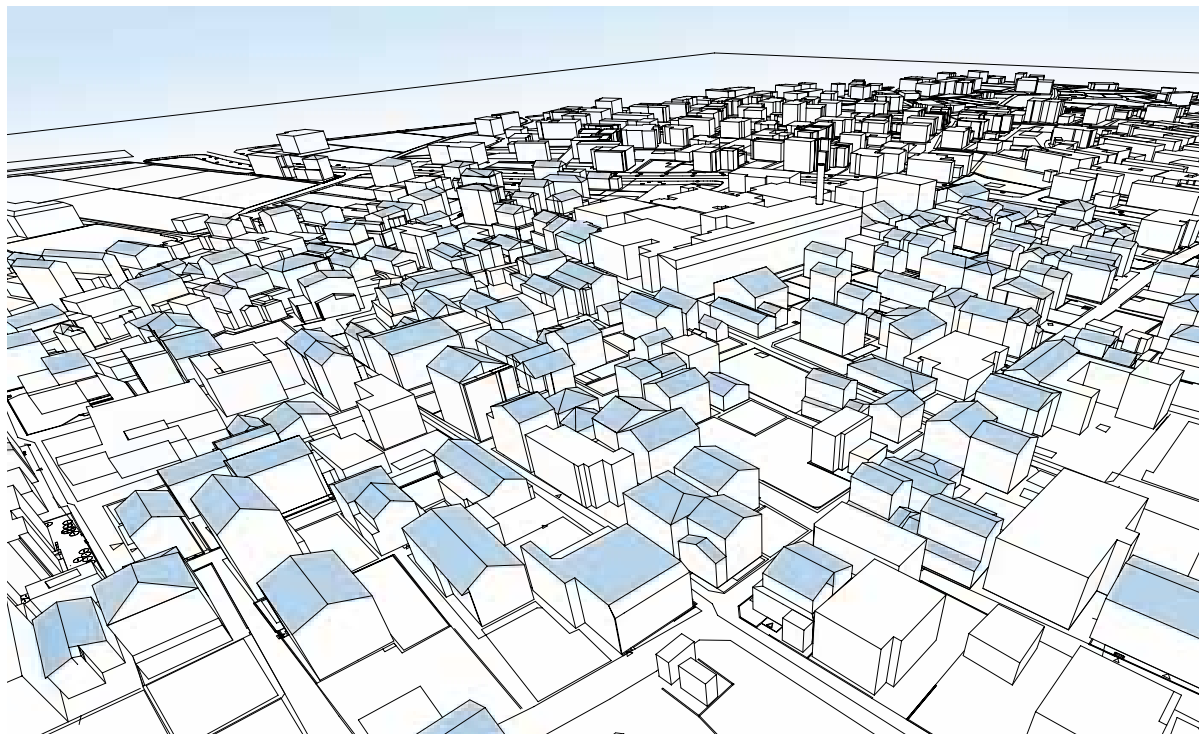
藍の家などに残る伝統的町家の形式・意匠要素を参照しています。また、遠景まちなみも復原しました。個々の建物高さは忠実に再現しています。



伝統的形式復原 CG



海側から津屋崎のまちなみを眺める



勾配屋根が多いまちなみを俯瞰する



未来への提案

「津屋崎千軒マスタープラン」をテーマに、九州大学大学院芸術工学府の大学院生と環境設計学科の学部4年生が津屋崎の未来への提案を行いました。

スアイなど伝統的空間の再構築による「新しい公共空間の創出」、減築や空き家活用による「近隣関係を紡ぐすまい」、海岸沿いデッキや遊歩道による「回遊空間」、夏の学校や結婚式場あるいはアーティスト・イン・レジデンスなど「地域と共に創るビジネス」、保存エリアの明確化による「開発の抑制」、海への景観軸の設定などについて、地域のみなさまとそれらの可能性について議論しました。



◀まちのイメージ



▲50年後のイメージパース②



▲50年後のイメージパース①



◀経年変化のイメージ

●コンセプト

人口の減少や空き地や空き家等の現状から、津屋崎千軒に住む人の生活が、住宅内部から外部へ拡張していくことが必要と考えた。

地域内で回遊性が高まるような工夫をすることで、生活圏域が伸縮するという提案。

●提案

1. スアイの拡張

現在のスアイを広げ、さらに四面接道にする。

2. 住宅の試案

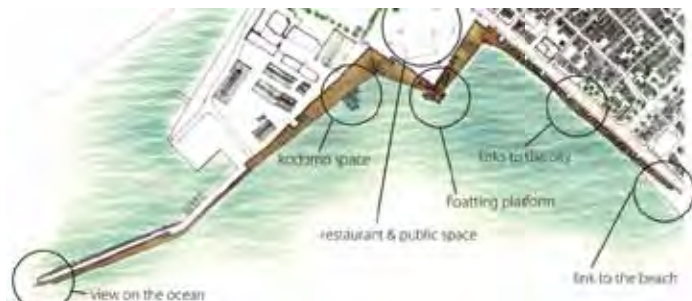
通りに間口をもつ住宅に減築、曳家を行う。
そこに生まれたヴォイド（抜けた空間）に住宅機能を補完する機能を挿入する。

3. 公共空間の拡大

現在のコンクリート舗装の部分を緑、ウッドデッキ、土間空間、砂浜などに替えることで、公共空間を新たに作る。

A グループ「伸縮するまち」

鎮西・三浦・岩崎・佐藤・吉村・大賀・阮



▲海とまちをつなぐ架け橋



◀▼空き地を利用してまちと住宅をつなげる
イメージ模型／断面イメージ



▲スアイを活かした空き家利用のイメージ

●コンセプト

津屋崎千軒のまちなみを歩いて、海とまちとが見え隠れする風景に、このまちのアイデンティティを感じた。

「歩行者」の視点から生活風景を再考し、生活空間をよりよくしようという提案。

●提案

1. 海とまちとの大きな架け橋をつくる。

海岸通りによって、まちと海が隔てられているため、デッキをつくることでまちと海とをつなぐ。

2. スアイでネットワークを強化

スアイに建築を付帯させる。スアイに接する空き家をギャラリーや図書館に改修する。

3. しみだす空き地

空き地にまちの機能（農地、保育園、酒屋）をつくり、暮らしの様子をしみ出させる。

B グループ「Pedestrian City」

中土居・島本・田原・西・範・Stephane・Louise



▲▼林間学校施設

津屋崎千軒に残っている長屋の立面を
イメージして計画



▲ゲストハウス プラン／イメージスケッチ

●コンセプト

現在の海岸通りからは奥にある歴史的まちなみの良さが気づきにくい。

訪問者がリピーターとなるような特別な非日常空間をつくる提案。

●提案

1. 祝祭に満ちる津屋崎－「結婚式場」の計画
2. 海を描く「芸術家 10 人のアトリエ」
アーティスト達がひとつの建物に住む。
半戸外のスアイの連続。
3. 「林間学校」
かつてのスアイや現在のスアイを活かし、
子どもや学生を呼び込む計画。
4. 「裏と表を再構成する」－ゲストハウス計画
海から内側につなげるように建物を建てる
ことで津屋崎千軒内の魅力を外へ引き出す。
5. スクリーンのような建物

C グループ「みち／ひき」

井佐子・小山・藤田・恒藤・福田・榎原



▲ 30 年後のゾーニング



▲ 住宅には伝統的な住居の要素をとり入れる



◀◀ 古民家の建具をしおさい通りに設置
普段は憩いの場とし、イベント時などに使用する



▲ 溜まり場 - 腰掛けて海を眺める



▲ ひとの暮らしと農業を結びつける施設

●コンセプト

津屋崎千軒の古地図より、昔は住宅が密集していた部分とそれ以外の部分の境界がはっきりしていた。

今後人口が減ることを念頭に置き、コンパクトなまちを実現しようという提案。

●提案

現在の日本の住宅が約 30 年で建て替わることから、古地図での「輪郭」の外側にはこれ以上新築せず輪郭の中に住宅地を集約する。

1. しおさい通りの仮設空間

古民家の建具を使用した仮設空間。

2. 海岸通り

一方通行にすることで歩行者空間を拡張。

3. 千軒通り沿いの住宅

伝統的な住宅の土間、中庭などを取り入れる。

4. 溜まり場

道端で話すという風景を残す。

5. まちの境界沿いの農業施設

農業を通した交流施設。

D グループ「30 年後の津屋崎」

大塚・大庭・大園・Kevin・木下・張・Pol-Alain・宮内

